

希少金属資源開発推進基盤整備事業

令和4年度予算額 3.6億円（2.5億円）

事業の内容

事業目的・概要

- 希少金属資源は、5G時代の到来や新型コロナウイルスの影響等を受けて市場が急速に拡大しているICT機器やIoT機器、AI搭載機器などの先端産業、半導体等の部品生産に欠かせません。
- このため、令和4年度は、初期的な資源探査や探査技術の高度化等を実施し、有望な鉱床の早期発見を目指します。
- 有望な調査結果が得られた場合には、資源開発の権利等を我が国企業に引き継ぐことによって、希少金属資源の供給源の多角化を図り、安定供給を確保します。

成果目標

- 初期的な鉱物資源探査や探査技術の高度化により、有望な鉱床の早期発見を目指します。
- 鉱物資源（ベースメタル）の自給率（金属需要に占める自主開発鉱石とリサイクル原料の割合。平成30年度は50%）を令和12年に80%以上に引き上げることを目指します。

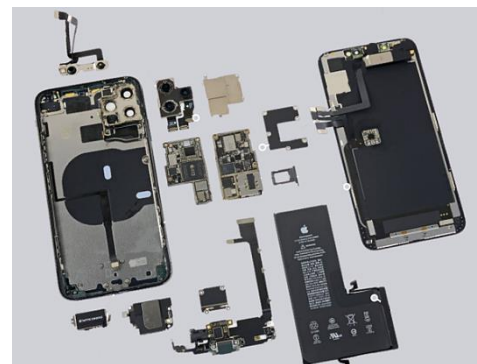
条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

製品・部材の高付加価値化に不可欠な希少金属資源等

（スマートフォンの例）



- 液晶画面（インジウム）
- コンデンサ（タンタル、マンガン、ニッケル、バリウム、チタン等）
- ICチップ（金、銀、錫、フッ素等）

希少金属資源の調査

有望地域の抽出

- 人工衛星データ解析による調査
- 有望地の情報収集・解析・評価
- 相手側機関との事前調査、協議・契約等

資源探査の実施

- 地質調査、地化学調査、物理探査、ボーリング調査等の実施

探査技術の高度化
人工衛星データ解析
物理探査技術等
実証調査